

提出日：令和 3 年 2 月 26 日

所 属： 獣医学部 獣医学科

氏 名： 井上 真紀 職位： 講師

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

獣医学科の科目：、獣医生理学実習 II では獣医師として理解しておかなければならない体の仕組みについて、人体や動物を使った実験結果を考察することでその理解を確かなものにさせるとともに基本的な仕組みだけでなく、生理的な範囲で生体の反応はバリエーションがあることを理解させるようにしている。

2年次の獣医療倫理・動物福祉、および5年次の医療面接実習では獣医師として他の人とのかわり方、動物との向き合い方において独りよがりにならないように、共感の姿勢を身につけてもらう努力をしている。

動物応用科学科の科目：動物解剖生理学実習で、人体を用いた実験で体の反応、生理的バリエーションを理解し、動物にかかわる学科で学ぶものとして基本的な体の仕組みを知ってもらうようにしている。

科目名	学科・専攻	必, 選, 自	配当年次	受講者数
獣医生理学実習 II	獣医学科	必修	3	140
獣医療倫理・動物福祉	獣医学科	必修	2	140
獣医内科学実習（医療面接実習）	獣医学科	必修	5	140
動物解剖生理学実習	動物応用科学科	必修	2	140
総合獣医学	獣医学科	必修	6	140

2. 教育の理念（育てたい学生像, あり方, 信念）

1. 獣医生理学実習 II では、下級の学年では学生はただ暗記することが主体の学習になっているため、それを変えて自分で考え、理解できる学習にさせる。教科書を見て教科書的な標準的な機序しか暗記しないというのではなく、生体の反応にはバリエーションがあり、そのバリエーションも実験誤差などではなく、すべて身体の調節のための根拠のある反応であることを考えられる学生にする。

獣医療倫理・動物福祉および医療面接実習では、獣医師としての基本姿勢、動物に対する福祉的態度を理解してもらい、これからの獣医師としての倫理的福祉的態度を身に付けてもらう。動物応用科学科では動物にかかわる学習をするにあたり、体の基本の仕組みを知るとともに、それを楽しんで学習できるようにする。

3. 教育の方法（理念を実現するための考え方，方法）

教育の目的と目標（これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法）

獣医生理学実習 II では、実習での実験データは失敗したらやり直しをすることで、最終的に失敗のないデータを得させて、それを考察させる。失敗データの場合、自分のデータでは考察できないので、教科書を見て教科書的な標準的な機序しか考察として書けないが、生体の反応にはバリエーションがあり、そのバリエーションも実験誤差などではなく、すべて根拠のある反応をしているので、生理学的に説明ができるものであることからそうしたバリエーションのあるデータをそれぞれに持ち帰らせて、それをきちんと考察させる。そのレポートを提出させた後に考察の説明を行い、自らの考察が的を得たものであったのか、見当違いだったのか考えてもらうことで理解を深めてもらうようにしている。

また、獣医師としてはチームで働くことを身に付けておく必要があるので、各実習項目で班員が協力してデータを取得するように促している。項目ごとに別の担当者を班で決めて、担当者がその項目のリーダーとなって班員全員で実験に取り組むやり方と入れている。これにより積極的な誰か一人が実験をして他は見ているという状況にならないようにしている。

獣医療倫理・動物福祉の授業では、獣医師としての基本理念を講義するなかにも、実際に事例を多く紹介して、獣医師としてよくない対応、良い対応や動物に対してのよい姿勢を理解しやすいようにしている。こうした低学年での講義を踏まえて、5年次での医療面接実習では模擬 g クライアントさん相手に獣医師として適切で共感的な対応ができるように実践してもらっている。

動物応用科学科での動物解剖生理学実習での生理学実験では、人体を用いた実験で実際の体の反応、機能を体感してもらうことで体の仕組みに興味を持ってもらい、生体の反応にバリエーションがあること、それが説明可能なことを示す。実験後に考察説明をすることで、独りよがりや間違いの考察にならないようにしている。

アクティブラーニングについての取組

実習科目は班で相談しながら実験をするのでグループワークになっている。

獣医療倫理については毎回その講義にかかわる内容の自分の意見を書く課題を出しているため、受け身で講義を受けたばかりではない、自分の意見を表明する機会にもなっている。

ICT の教育への活用

講義や実習時の実習の予習・方法・考察説明はパワーポイントを用いている。実験方法や実際の実験の動画も提示して説明している。講義時には学理の小テストを使って都度、学生の理解度を測っている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）

獣医生理学実習 II について主に記載する

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

②学生の理解度の把握（A）

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

⑤双方向授業への工夫（B）

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

上記を鑑みて現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

①教育（授業，実習）の創意工夫（A）

獣医生理学実習 II では予習説明をして別日に実験をし、その実験のレポートを提出した後に考察説明の回を設けて、データの整理方法、考察が的を得ていたかどうか確認できるようにしている。レポートは各項目班で一つなので、自分が担当していない項目について勉強しないということがないように、最後に考察記述会として、実験した項目から4～5項目選んでデータを提示して制限時間考察を記述する授業を設けており、これにより、すべての項目について学習せざるを得ない状況にしている。そのあとに、考察記述会で提示したデータの模範考察の文をもとに穴埋めあるいは間違い探しの問題で試験をすることで、考察にはどれだけ書かなければならなかったか理解させるとともに、問題ができたかどうかで理解度を測っている。

②学生の理解度の把握（A）

実験項目ごとにレポートを提出させ、結果の表記法、解析が不十分なものはコメントをつけて再提出をさせている。また上記のように考察記述会とその後の試験で学生の理解度を測っている。

③学生の自学自習を促すための工夫（B）

各項目で、班で一人担当者を決めるので、少なくともその項目については責任感を持って実習に取り組んでいる。また担当でなかった項目も考察記述会があるので、自習する目的となっている。

④学生とのコミュニケーション(質問への対応等)（B）

教員側は質問を歓迎しているが、なかなか質問に来ない。試験に落ちてからくる人が多い。実習では実験中は各班のデータチェックをこまめにすることで、教員が巡回した時に質問をしやすくしている。

⑤双方向授業への工夫（B）

実習のレポートにコメントをつけて返して再提出してもらうことで、タイムラグはあるが双方向の対応はしている。

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。

基本的な生理学について、実験を通じて必ず理解させるよう評価を厳しくしている。

総合獣医学では過去 5~6 年の科目の問題をまとめたものを配布して、どういうことに注意すべきか解説している。

5. 学生授業評価

① 授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

技術的なこと（マイクを使うのを忘れる、字の色が見難い）は都度改善している。
評価が厳しいことへの反発に対しては変更するつもりはない。
わかりやすい、勉強になったという評価もあるので、勉強したい人の役に立っていると考えている。質問しにくいという評価が散見される。実習中は正しいデータを持って帰らせることに集中していて、考察の質問に答える時間がなく、オフィスアワーを衆知するに留まっている。

② ①の結果はどうでしたか。

技術的なことへの悪い評価は減っているようである。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

実習の時間外に質問しやすいようにオフィスアワーを設けるだけでなく、「質問用の時間」としてどこかで設定するなどして質問に来やすい工夫が必要と考えている。
他は特に変更の予定はない。

6. 学生の学修成果

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

過去の資料を丸暗記する勉強法をやめさせるべきである。学生の作った資料は間違っているものが多い。ただどうやったら過去資料を取り上げられるのかよい考えが浮かばない。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

6 年次や卒業生に役に立ったと言われることがある。

7. 指導力向上のための取組（FD 研究会参加状況）

FD 等は極力参加している。

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。

私のやり方を全く理解できず、その結果、成績も悪く、自分が出来ていないことを棚に上げて文句ばかり言う学生が年に一人くらいいるのだが、そういう人も理解できるようにする方法を考えたい。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

シラバス 教材 小テスト 考察記述会課題 試験問題

授業評価データ

過去の授業で書いてもらった学生の授業感想